

FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIP RACE REPORT

Rd.1	OKAYAMA	>>>>>>>>	MAY 24-25
Rd.2	FUJI SPEEDWAY	>>>>>>>>	JUN 28-29
Rd.3	SUZUKA CIRCUIT	>>>>>>>>	JUL 12-13
Rd.4	Sportsland SUGO	>>>>>>>>	AUG 30-31
Rd.5	FUJI SPEEDWAY	>>>>>>>>	SEP 26-27
Rd.6	SUZUKA CIRCUIT	>>>>>>>>	NOV 22-23

FULL SPEED AHEAD

**TOM'S**

Rd.2

6.28[sat] - 29[sun]

[place] 富士スピードウェイ(静岡県小山町)

[weather] sat 晴れ sun 晴れ

富士スピードウェイで TOM'Sの2台が激戦を展開。 鈴木と梅垣が勝ち星を分け合う。

QUALIFYING

2025 FORMULA REGIONAL JAPANESE CHAMPIONSHIPのRound2が6月28日(土)・29日(日)に富士スピードウェイで行われた。開幕大会の岡山では1大会3レースのフォーマットだったが、今大会は土曜日に予選、日曜日に決勝2レースが行われるスケジュールで開催。金曜日の専有走行から#37 梅垣清が先行する展開となり、その流れのまま28日(土)の予選でも2セッションともトップタイムを記録しダブルポールポジションを獲得。鈴木斗輝哉も予選で差を縮め、両セッションともに2番グリッドを手にした。

●天候:晴れ ●気温:30℃ ●路面温度:39℃



RACE

29日(土)8時50分からのRace4 決勝(15周)では、スタートでトップに躍り出た鈴木が、そのまま逃げ切って今シーズン3勝目を記録。ポールポジションの梅垣はスタートで出遅れて一時は4番手まで後退したが、前半のうちに2番手まで挽回し、最後はトップの鈴木に対して1.3秒差まで詰め寄るも、逆転できず2位チェッカーとなった。

14時30分からのRace5 決勝(15周)も、ポールポジションの梅垣を、2番グリッドの鈴木がスタートで逆転。そのまま富士大会2連勝に向けてトップを死守したが、最終ラップまで諦めずに逆転のチャンスを狙っていた梅垣がゴール直前に逆転し、わずか0.038秒差でトップチェッカーを受けた。

Race4 ●天候:晴れ ●気温:28℃ ●路面温度:31℃

Race5 ●天候:晴れ ●気温:30℃ ●路面温度:39℃



37

TOM'S TGR-DC FR

KIYOSHI UMEGAKI

Driver 梅垣 清

Race 4

予選 1位 決勝 2位

Race 5

予選 1位 決勝 1位

	Race 4	Race 5
予選	QF1ベストタイム P1/1'37.811	QF2ベストタイム P1/1'37.421
決勝 ベストタイム	P2/1'37.256 Fastest Lap	P1/1'37.385 Fastest Lap

38

TOM'S TGR-DC FR

TOKIYA SUZUKI

Driver 鈴木 斗輝哉

Race 4

予選 2位 決勝 1位

Race 5

予選 2位 決勝 2位

	Race 4	Race 5
予選	QF1ベストタイム P2/1'37.878	QF2ベストタイム P2/1'37.515
決勝 ベストタイム	P1/1'37.569	P2/1'37.685

TOM'S

37



ドライバー 梅垣 清

予選はどちらのセッションも路面温度が高く、グリップレベルが低かった印象でした。ただ、バランスは悪くないのでタイムもある程度出せた印象です。

1レース目はクラッチミートした瞬間に遅れてしまって、一気に4番手まで順位を落としました。ペースは良かったので、切り替えて2レース目に挑みました。ここでもトップを奪われましたが、ペースは悪くなかったので、隙を探っていました。最後は「本当にここしかない!」という感じで、一瞬の隙でしたけど、結果的に追い抜けて良かったです。

38



ドライバー 鈴木 斗輝哉

予選は力不足で、セクターごとにまとめられていればトップに立てたと思います。ただ、2番手からのスタートであればそんなに悪い結果ではないと思っています。

1レース目ではスタートで前に出られたことと、SC明けの展開がうまくいったのが良い結果に結びつきました。2レース目は悔しいですが仕方ありません。気持ちを切り替えて次に進んでいくしかありません。次戦の鈴鹿は富士より得意なので、好結果を獲りにいければと思います。



チーム監督 山田 淳

この大会では走り出しから梅垣選手のペースが良く、予選でもダブルポールを獲得しました。決勝の内容を踏まえると、特に1レース目はメンタルの浮き沈みが気になりました。しかし、2レース目の逆転は素晴らしかったです。

鈴木選手も1レース目で勝ちましたが、まだまだ2人には課題があると感じています。特にタイヤの使い方の部分ではしっかりと振り返って、次戦に向けて考えないといけないと思っています。



PONOS

アイエトモ

GR TOYOTA GAZOO Racing

TGR-DC TGR Driver Challenge Program

DUNLOP

MOTUL

